

## 私の医師会活動

地方独立行政法人広島市立病院機構 広島市立広島市民病院

外科主任部長 塩崎 滋弘

平成24年12月31日現在における厚生労働省統計によると、全国の届出医師数は303,268人、そのうち医療施設の従事者は288,850人となっています。この医療施設の従事者のうち病院、診療所の開設者または法人の代表者は77,555人(26.8%)で、病院や診療所への勤務者(いわゆる勤務医)は211,295人(73.2%)となっています。親族で開業された場合、開設者以外は勤務医とカウントされますのでこれらは正確な値を示しているとはいえませんが、数の上からは勤務医は届出医師数の約7割以上を占めていることになります。一方で日本医師会のデータでは、平成24年の日医会員165,650人のうち、いわゆる病院・診療所の開設者、管理者およびそれに準じるA(1)会員は84,051人であり、勤務医と考えられるA(2)、B、C会員は合わせて81,599人となります。二つのデータは多少異なったものとなっており、一緒にすることは少し無理がありますが、勤務医の医師会への加入は4割程度と推測されます。すなわち、よくいわれていますように開業医の先生方に比べて勤務医の医師会への入会率は非常に低く、勤務医、特に若い医師の医師会に対する無関心、医師会離れを物語っているものと考えられます。

そういう私も長い間医師会活動とは無関係でした。日本医師会には早くから入会し、また広島に住むようになった20数年前から広島県、広島市医師会に加入はしていましたが、医師会への関心は低いものでした。平成22年に当時の病院長から「医師会に予定していた人が行けないのでお前代わりに行って来い」といわれ、広島市医師会理事を拝命したことが初めての関わりでした。市医師会理事となり理事会に出席したものの、人もわからず文言や規則もわからず、これは大変なところに来てしまったなど痛感しました。最初は病院の名を汚さぬよう目立たず、2年間を無事切り抜けることを考えていました。幸い担当が勤務医部でしたので、勤務医のことをやっていたら何とかこなせるのではないかと

思っていました。

ところが当時医師会の変革の時期を迎えていました。広島市医師会も「一般社団法人広島市医師会」に移行すべく定款諸規定などを協議している真っ最中でした。区医師会も今までのように広島市医師会の下部組織としてではなく、対等な立ち位置で活動を行うように改革を行っていました。その中で勤務医も新しい組織作りをすることを提案されていました。これまで広島市医師会では勤務医部の中の勤務医委員会が唯一勤務医の集まりで組織はありませんでした。独立した勤務医会のお手本としては、区医師会とはまったく分離した福岡市医師会勤務医会が参考とされました。勤務医のことを考え行動する独立した勤務医の組織を作るということは理想的ですが、それは同時に非常に難しいことでした。もともと勤務医は転勤があり基盤がない上に、若い医師が多く医師会に関する関心は希薄です。医師会活動を知る勤務医の先生方からは、区医師会から独立した勤務医組織を作ることには反対という意見を多数いただきました。いろいろ協議をした結果、勤務医はまず広島市勤務医会に入会しますが同時に今までどおり区医師会にも所属する形に整えました。勤務医会会則を制定し、初代会長、副会長には基幹病院の院長先生方に就任していただきました。そして平成25年6月30日の広島市医師会臨時代議員会で承認をいただき広島市勤務医会が成立しました。

根本的な問題も山積みですが、労働環境の改善、女性医師支援、学術講演会・懇談会、退職医師の業務斡旋そして医師会入会勧誘と勤務医のための活動が期待されます。今回の発足は、現在よりむしろ将来の勤務医のためのものであり、勤務医会員が増えこれから徐々に発展していくことを願っています。私は現在、広島市勤務医会から広島県医師会勤務医部会に参加していますが、もう少し勤務医のための医師会活動は続きそうです。